

発行

財団法人 日本ユニセフ協会 学校事業部

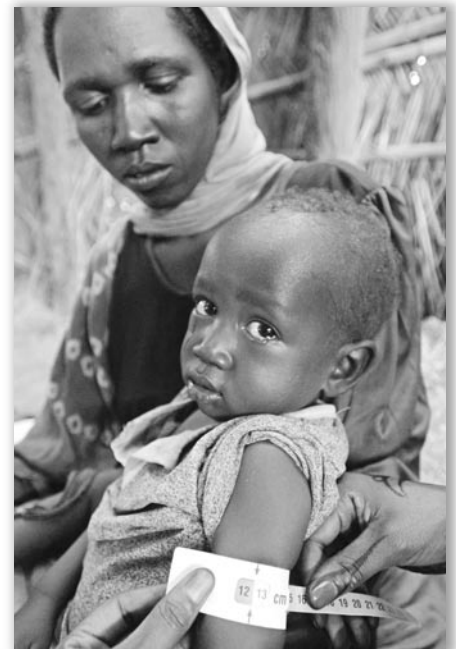
〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス TEL:03-5789-2014 FAX:03-5789-2034 Email: se-jcu@unicef.or.jp
ホームページ http://www.unicef.or.jp 募金口座◎郵便振替・00190-5-31000・(財)日本ユニセフ協会・送金手数料免除

子どもたちの命と未来を おびやかす脅威 栄養不良

2007年、「子どもの命を守る」というユニセフの使命にとって重要な、ひとつのデータが発表されました。5歳未満児の死亡数（1年間に5歳の誕生日を迎える前に命を失う子どもの数）が初めて1,000万人を下回り、970万人になったのです。

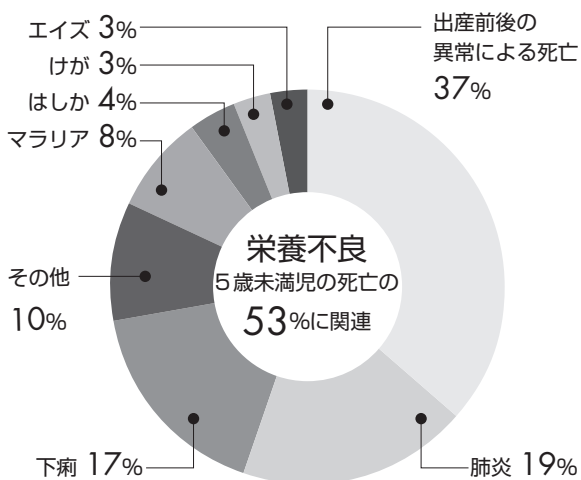
しかし、多くの子どもの命がおびやかされている現実は今も変わっていません。

世界中の5歳未満児の死の約半分に関わっている深刻な問題
—それが「**栄養不良**」です。



©UNICEF/HQ06-2202/Georgina Cranston
腕回りを測って子どもの成長具合を確認。
1～5歳の子どもの上腕周囲が12.5センチに満たないと
栄養不良の可能性がある。(スーダン)

【表1】5歳未満児の死亡原因（2000-2003年）



*小数点以下四捨五入のため100%になりません

出典：PROGRESS ON CHILDREN, No.6
A World Fit for Children Statistical Review
UNICEF Facts on Children 2007

栄養不良とは？

栄養は子どもが健康に育つための基礎

食事の量が不足している、量が十分でも栄養が偏っている、あるいは感染症（細菌などに感染してかかる病気）に何度もかかって栄養が失われているなどの体の状態を、「栄養不良」といいます。

栄養不良になると、子どもは抵抗力が弱まり、下痢や肺炎などのような子どもによく見られる病気で命を失う可能性が高くなります。【表1】のように、5歳未満児のさまざまな死亡原因に栄養不良が関わっています。命を失わないまでも、体の成長や知能の発達が十分でなかったり、病気がちになったり、病気から回復する力が弱くなったりします。

また、学校で勉強する時に先生の話が理解できない、集中力に欠けるなど、学習に支障がでる可能性もあります。

子どもの健やかな成長には、十分な栄養をとることが欠かせないのです。

栄養不良の原因と現状

なぜ、子どもたちは栄養不良になるのでしょうか？

世界では、地球上の全人口が食べられるだけの十分な量の食糧が生産されているといわれています。つまり、栄養不良の原因は単に食糧の配分の問題だけではなく、【表2】のように貧困や病気など、いろいろな要因が絡み合って起こるものなのです。



© UNICEF/HQ07-0632/Giacomo Pirozzi
十分な栄養をとると体の抵抗力が増し、健やかに成長する。(リベリア)

【表2】 栄養不良の要因

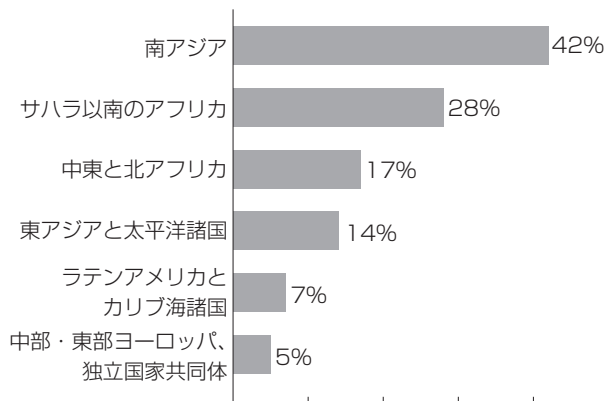
- 食糧はあるものの、その中に含まれるたんぱく質や微量栄養素*が不足している
- 下痢や肺炎、マラリアなどの感染症や病気に何度もかかり、体から栄養が失われる
- 適切な栄養や衛生の知識を身につけていない
- 保健サービスが十分でない
- 安全な水やトイレなどの衛生施設がない
- 子どもの世話や食事のとりらせ方が適切でない

※基礎講座参照

子どもの栄養不良の主な目安とされているのが「低体重」です。低体重とは子どもが年齢相応の体重に達していない状態を言います。開発途上国では、5歳未満児の4人に1人が低体重で、その総数は1億4,300万人にのぼります。

【表3】 参照

【表3】 低体重の5歳未満児の比率（地域別）
(2000-2006年)



出典：PROGRESS FOR CHILDREN, No.6
A World Fit for Children Statistical Review

ユニセフの取り組み

栄養状態が改善されると、子どもは病気に対する抵抗力が増して下痢や肺炎、マラリア、はしかによる死を防ぐことができ、健康に育つことができるようになります。

また、栄養状態のよい女性は妊娠や出産に伴うさまざまな危険が小さくなり、生まれた子どもも順調に成長することができます。

ユニセフでは、妊産婦やお母さんたちに栄養の大切さを伝えたり、学校に菜園を作って子どもに栄養について教えるなど、栄養についての知識の普及に努めています。また、家庭に牛や羊、ひよこなどを提供して育て方を指導し、家族の栄養改善に役立てています。

さらに予防接種の時にビタミン剤を配る、妊婦の検診の時に鉄や葉酸等を提供するなど、微量栄養素の補給にも取り組んでいます。

乳幼児は病気に対する抵抗力が最も弱いため、この時期に栄養が不足すると、子どもの命が失われたり、健康に取り返しのつかない影響が及んだりします。ユニセフでは、生後6カ月までの完全母乳育児（赤ちゃんを母乳だけで育てること）を推進するとともに、2歳までは母乳とともに適切な離乳食を与えるなど、有効であることが証明されている栄養改善策に取り組んでいます。



© UNICEF/HQ05-2131/Giacomo Pirozzi
お母さんの母乳は赤ちゃんにとって最高の栄養。
(コンゴ民主共和国)